



学校の理念を表す「愛の姿」像

# 滋賀県立聾話学校

SDGsろうわバナナー見て・育てて・食べて・作って・感じる  
Shiga Go Slow the 地球温暖化ー

## 仲間の協力で育てるバナナの研究

### 成果発表会のポスター発表でも注目

「学校でバナナを育ててみんなで食べようー」。  
2023年12月に行われた中谷財団の成果発表会で、そんなワクワクする活動報告のポスター発表を行い、大きな注目を集めたのが滋賀県立聾話学校だ。

活動初年の23年度は、高等部の13名が作業を分担・協力して苗からバナナを育てたほか、「調べ学習」としてバナナの皮の肥料作りや茎・葉の繊維を用いたバナナペーパー製品の開発など、SDGsを意識した取り組みを行った。各生徒は聴力レベルや在校歴によって手話の熟練度などが異なるが、2年の木下渉さん、岡谷新さんは「手話や筆談、口の動きや表情から内容を読み取る読話・口話などを今まで以上にフル活用してコミュニケーションをとり、協力し合いました」と話す。



高等部の13名。ビニールハウスと防寒用の藁巻きで冬に備える



「発表時間の調整などを何度もくり返して準備」(木下さん、岡谷さん)した成果発表会の様子

### 活動を通して培った共感の輪

その結果、2人は異口同音に「今までは何でも先生に訊いていましたが、仲間と相談したり自分で調べたりして問題を解決するようになりました」と自身の成長を振り返る。

これを受けた担当の宇野共美教諭は「聴覚障害がある場合、自ら情報を得ようとする意識や意欲がないと話を聞き流してしまいがちになります。でも、きちんと仲間話を聞き、自らも伝えることで得られる共感や自信にもつながる重要なものです。本活動では、コミュニケーション意識の高まりとともに生徒たちが共感や自信を得る場面が多く見られました」と話す。事実、手話やタブレットを駆使した発表でポスター前に大きな人だかりを作った2人の顔は自信に溢れていた。

さらに、彼らの発表を聞いた他校の教諭からは「バナナの繊維をうちの高倍率顕微鏡で撮影しましょうか」という申し出もあった。活動を通して培った共感の輪が、学校の枠を超えて広がった瞬間である。(個別助成)



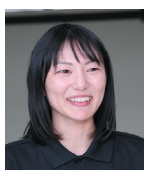
バナナの高さは背丈を越えたが、1年目なので結実はまだ、夏が楽しみ



バナナペーパー作成用に葉と茎を細かく切る



幼稚部の子たちも親しめるよう、バナナの各株に名前をつける



#### ●実施担当

宇野共美 教諭

#### ●活動のモットー

特別支援の教員として、子供たちと他者との関わりを大切にしている。ただそばにいても、子供にとっては関わりだと思ふ。

#### 学校概要



滋賀県で唯一、聴覚障害のある子供のための学校。幼稚部、小学部、中学部、高等部があり、3歳～18歳までの子供が通う。

設立：1928年

生徒数：40人

所在地：滋賀県栗東市川辺664番地

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団

〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

中谷財団

検索

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

